

「カカシカ」―禍の見える禍

カカシカ科

危険度：？？？？？？

生息数：★☆☆☆☆

生態

見た目は人間の少女とも変わらない姿だが、頭部に角のようなものが生えているのが特徴的である。他の個体も同じ容姿なのかどうかは不明。通常、禍は目には見えないが、カカシカに憑かれた人間はその存在を視覚情報として認識できるようになる。何を養分として人間から摂取しているのかなど、不明な点が多い。

解説

禍が見えることによつて、その人間自身を不幸にする禍である。禍とはいっか必ず不幸を呼ぶ存在であり、それが見え

るということは未来の不幸を見ているも同じなのである。これは未来予知ではないが、極めて精度の高い「未来予想」である。未来予知が可能になれば人間は滅びるといふが、貴方はこれをどう思うだろうか？ 私はそれを信じる。カカシカに憑かれた人間は世界のごく一部ではあるが未来予想を可能とされ、そしてその未来は全て不幸に通じる。個人にとつて極めて危険な禍であることは間違いない。

ただしこの禍の特殊性は他に類を見ない。なぜなら「皆が不禍な世界」において、カカシカの危険性は全くのゼロになるからだ。逆もまた然り。この禍の危険度はそのままその時代・世界の危険度とイコールとなる。不禍の時代を心から喜び、禍の時代を心から憂う、それがカカシカである。

対処法

カカシカによる最大の危険性は自殺、自我の崩壊である。これに対処する方法は二通りあり、一つはその時代・世界そのものの危険度を下げること。世界を幸福で満ち溢れさせることである。二つ

目は世界を愛さないことだ。つまり周りが不幸になろうが死のうが知ったことではない、自分には関係ないという考え方になればいい。これができれば当面の危険は回避できるだろう。しかしこの禍の場合、そもそも対処するのかわるか、それを良く考えていただければ幸いに思う。

**No Image**